

イハトヴォ

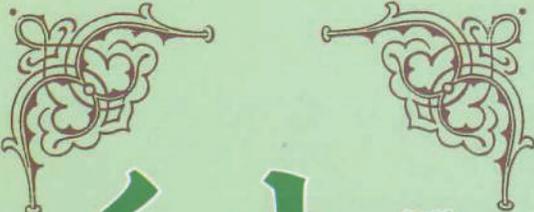
物語

原作
宮沢賢治



取扱説明書

hector
Playing Interface



イーハトーヴォ 物語



もくじ

- 「みやざわけんじ宮沢賢治せかいの世界」への旅たび…………… 3
- イーハトーヴォ全体マップ…………… 4
- コントローラーの操作そうさ方法…………… 6
- 旅たびのはじまり…………… 8
- 旅たびの進め方すすめかた…………… 9
- キャラクター紹介しょうかい…………… 12
- 登場とうじょうする賢治けんじの世界せかい…………… 17
- みやざわけんじ宮沢賢治しやうがいの生涯…………… 22
- きつやくしや作曲者より…………… 26

イーハトーヴォ 物語



みやざわけんじ せかい たび 「宮沢賢治の世界」への旅

このゲームの舞台は、宮沢賢治が描いた理想郷「イーハトーヴォ」。宮沢賢治の作品をベースに下記の全9章で構成されており、プレイヤーは主人公である旅人となって賢治の世界を旅します。賢治の「失われた7つの手帳」を探し求める旅へとストーリーは展開していきますが、旅路には賢治の世界のさまざまな人々や動物たちが登場してきます。個性豊かな人々や動物たちと話をしながら、情報を集め、7つの手帳を手に入れるまで主人公の旅は続きます。さあ、「宮沢賢治の世界」へ旅立ちましょう。

第1章 貝の火
第2章 カイロ団長
第3章 虎十公園林
第4章 土神と狐
第5章 グスコープドリの伝記

第6章 オツベルと家
第7章 セロ弾きのゴーシュ
第8章 雪渡り
第9章 銀河鉄道の夜



イーハトーヴォ全体マップ

ストーリーにしたがって市街地を出ると、イーハトーヴォの全体をあらわすマップがあらわれます。(→11ページ「街を出る」参照。)主人公は、賢治の「失われた7つの手帳」を求めて、この広大な地域を旅することになります。



イーハトーヴォの世界



コントローラーの操作方法



基本的なボタン操作

- +ボタン……主人公や選択カーソルの移動。
 - スタートボタン……ゲームのスタート。
 - Aボタン……アイテムや全体マップでの移動場所の決定。会話の進行や扉の開放。
 - Bボタン……アイテムのキャンセル。
 - Yボタン……アイテムの表示。
- ※セレクトボタン・Xボタン・Rボタン・Lボタンは、本ゲームでは使用しません。

たび 旅のはじまり

電源を入ると、しばらくして「春と修羅序」の画面のあと、右のようなタイトル画面があらわれます。
スタートボタンを押してゲームをはじめます。



「旅の日記」を選ぶ

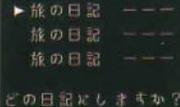
タイトル画面のあと、右のような画面でゲームを選択します。「はじめから」かセーブしてある「旅の日記」に十字ボタンでカーソルをあわせ、Aボタンを押します。



「旅の日記」をつける

全部で9章ありますが、各章がおわると右のような画面があらわれ、「旅の日記」をつける(ゲームをセーブする)ことができます。3つまで日記をつけることができます。十字ボタンでどれかにカーソルをあわせ、Aボタンを押します。

また、旅の途中でケンジントンホテルに行き、チェックインするとこの画面があらわれ、同様に日記をつけることができます。旅の途中でゲームを中断するときは、ケンジントンホテルに泊まりましょう。



たび すす かた 旅の進め方

旅はイーハトーヴォ駅からはじまり、フィールド上には多くの人々や動物たちがいます。主人公を十字ボタンで移動させ、これらの人々や動物たちの話を聞いて情報を集めたり、アイテムを手に入れ、使ったりしながら旅を進めます。



話す

話したい人物や動物の方向を向いて、ぴったりとくっついてAボタンを押すと、話すことができます。ウインドウの右下に▼マークが点滅したら、Aボタンを押して会話を進めますが、表示中にAボタンを押すと、会話のスピードがはやくなります。一度の会話ですべての情報が聞けるとは限りません。何度か話してみる必要がある場合もあります。ひとの話はよく聞きましょう。



たてもの 建物やほこらに入る

建物やほこらの扉の正面に立ち、Aボタンを押すと扉が開き、中に入ることができます。しかし、鍵がかかっている開かない扉もあります。



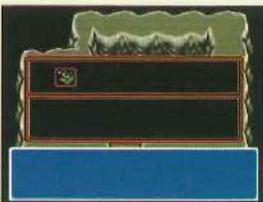
■ アイテムを手に入れる

旅の途中でアイテムを手に入れることができます。会話の最中、自然に手に入るアイテムもありますが、近づいたとき、手に入れるかどうかウインドウでたずねられることがあります。たずねられたときに「はい」を選択するとアイテムを手に入れることができます。



■ アイテムを使う

アイテムは、主人公が手にしていなければ使えません。Yボタンを押すと、右のようなアイテムの画面があらわれます。✚ボタンで手にしたいアイテムにカーソルをあわせ、Aボタンを押しアイテムを手にします。その後、使いたいところに移動し、Aボタンを押します。



アイテムの一部をお見せします。ただし、アイテム名や特徴はひみつ…。他にもいろいろなおアイテムがあります。必ず手に入れるようにしましょう。



■ 街を出る

旅はイーハトーヴォ市街地からはじまります。ストーリーにしたがって街を出ると全体マップがあらわれます。✚ボタンの上でカーソルを次の地点に移動させ(下でもどる)、Aボタンを押します。なお、情報不足の状態でも街を出ても、全体マップはあらわれますが、移動することはできません。



カーソル



しょうかい キャラクター紹介

ゲーム中にはたくさんのキャラクターが登場し、情報やアイテムを与えてくれます。主なものについて紹介しましょう。また、各キャラクターは原作より抽出し、それぞれアレンジしてあります。どの原作に登場しているのかわせて紹介しますので、機会があったら原作も読んでみましょう。



ねこ かま猫

イーハートヴォ市街地の北にある猫の事務所につとめている猫。プレイヤーがたずねていくと、いろいろ情報を教えてくれます。

●登場作品(原作)
「猫の事務所」



ファゼーロ

イーハートヴォ市街地北西にある羅須地人協会の会員。賢治さんに関する情報を教えてくれます。

●登場作品(原作)
「ポラーノの広場」



レオーノキュースト

イーハートヴォ市役所につとめている元博物館員。たずねていくと何から情報を教えてくれます。

●登場作品(原作)
「ポラーノの広場」



くーぼー博士

イーハートヴォ農学校で講師をしている大学者。

●登場作品(原作)
「グスコーブドリの伝記」



ほらぐま先生

貝の火の森にすんでいる半人半獣の仙人。昔は洞熊学校で、動物たちを教えていました。

●登場作品(原作)
「洞熊学校を卒業した三人」



だんちよう カイロ団長

大きなトノサマガエル。イーハートヴォ市街地にある「カイロ団長の店」のオーナー。

●登場作品(原作)
「カイロ団長」



けんじゆう 虔十

おおらかでやさしい心を持った少年。

●登場作品(原作)
「けんじゆうさん
けんじゆう公園林」



つちがみ

土神

あふから
荒々しく身勝手だが、正直な地神。

●登場作品(原作)

「土神と狐」



狐

はしき
博識かつスマートで海外事情に詳しい狐。

●登場作品(原作)

「土神と狐」



禪の木

ひとと話をすることができる禪の木。

●登場作品(原作)

「土神と狐」



グスコブドリ

イーハトーヴォ火山局の技師。

●登場作品(原作)

「グスコブドリの伝記」



ネリ

グスコブドリの妹。

●登場作品(原作)

「グスコブドリの伝記」



オツベル

イーハトーヴォ一番の商人。

●登場作品(原作)

「オツベルと象」



白象

象の森に住んでいる、好奇心の強い象。

●登場作品(原作)

「オツベルと象」



ゴーシュ

金星楽団のセロ奏者。

●登場作品(原作)

「ゼロ弾きのゴーシュ」



しろう 四郎

ゆきわた りむ す きつね なか
雪渡りの村に住む、狐と仲のいい
少年。

●登場作品(原作)
「雪渡り」



こ カン子

しろう りむし しろう おな きつね なか
四郎の妹。四郎と同じく、狐と仲
がいい。

●登場作品(原作)
「雪渡り」



こんきぶろう 紺三郎

しろう こん なか しろう
四郎、カン子と仲のいい白狐。

●登場作品(原作)
「雪渡り」



登場する賢治の世界



ゲーム中には
賢治の世界がいっぱいに広がっています。
主なものについてエピソードを交えて
ご紹介しましょう。



イーハトーヴォとは？

賢治は、自分の童話を「イーハトーヴォ」童話と名付け、「注文の多い料理店」のちらし広告にこう書いています。

イーハトヴは一つの地名である。強て、その地点を求むるならばそれは、大小クラウスたちの耕してゐた、野原や、少女アリスが通つた鏡の国と同じ世界の中、テバートール砂漠の遙かな北東、イヴン王国の遠い東と考へられる。実にこれは著者の心象中に、この様な状景をもつて実在したドリームランドとしての日本岩手県である。(後略)

「イーハトーヴォ」は、岩手のエスペラント風の呼びかたであり、上記のように「イーハトヴ」と表記されていたり、他に「イーハトーボ」、「イーハトープ」と表記されている場合もあります。このように賢治の作品には、現実の地名などをエスペラント風に言い換えたものが他にも数多く出てきます。例えば「ポーロ」の広場には、「モリーオ」(盛岡)、「セムダード」(仙台)、「サーモ」(鮫)、「シオーモ」(塩釜)、「トキーオ」(東京)などが登場しています。

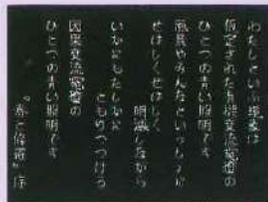
賢治とエスペラント

賢治は外国語に対して人並みはずれて深い興味をもっていました。英語はもちろんほとんど独学でドイツ語やフランス語まで習得していたといわれています。大正15(1926)年に上京し、チェロやオルガン、タイプライターなどの勉強もかねて、エスペラントを学び、いくつかのエスペラントによる詩も残されています。



はる しゆら 「春と修羅」

タイトル画面の前に右のよな画面があらわれます。これは賢治の詩集「春と修羅」の序の第一連です。賢治は生前、詩集「春と修羅」と童話集「注文の多い料理店」2冊の本を刊行しました。ともに大正13(1924)年のことで、「春と修羅」は自費出版というかたちで1千部刊行されました。



にちりん やま 「日輪と山」



タイトル画面のバックの絵は、賢治自筆の水彩画「日輪と山」を描いたものです。賢治は幼少のころから、絵を描いたり、像を刻んだりすることが好きでした。浮世絵から洋画まで幅広く興味を持ち、多くのものを収集したといわれています。現在も賢治の描いた数枚が残っていますが、ほとんどが水彩画でこの「日輪と山」や「赤王」、「月夜のでんしんぼしら」などがあります。

イーハトーヴォ農学校

のうがつこう

賢治は大正10(1921)年12月、稗貫郡立稗貫農学校(後の花巻農学校)の教師となりました。ゲーム中に登場するイーハトーヴォ農学校はこの農学校をアレンジしたものです。

教室1つ、草ぶき屋根の食堂2棟、事務所兼職員室、そ

れに使丁室、宿直室という、たいへん素朴な学校で花巻の人には愛称なのか蔑称なのか「桑っ子大学」と呼ばれていました。教師は校長以下4名、書記1名、剣道師範1名。2年制の学校で、この年生徒は2年生17名、1年生40名でした。

賢治は代教・農産製造・作物・化学・英語・肥料・気象・土壤、他に実習として水田耕作を担当しました。賢治の授業はわかりやすく、実地にすぐ役立つことを教えたといわれています。また、生徒のために「精神歌」などを作ったり、自作劇を上演したり、生徒たちを戸外にもどんどん連れ出して山に登ったりもしました。生徒たちに評判がよく、他の学校からも見学にくるほどであったといわれています。



▶小岩井農場、農学校教師時代刊行した詩集「春と怪談」のなかに「小岩井農場」と題する作品が、パート1からパート9まで取められている。



羅須地人協会

大正15(1926)年3月31日、賢治は4年4ヶ月勤めた花巻農学校を依願退職し、その次の日実家を出て、花巻郊外のしもねこ荘(現・花巻市桜町)で下宿生活を送り、単身で独居自炊の暮らしをはじめました。ここにその年の8月開かれたのが「羅須地人協会」

です。賢治は、ここで畑を耕し、人々を集めて楽器の演奏をしたり、農業や芸術の講義をしたり、近所の子供たちに童話を読みかかせたりして理想の農村建設を目指しました。

現在でも、「羅須地人協会」の建物は花巻農業高等学校の敷地内に残されており、生徒たちは「賢治先生の家」とよび、交替で掃除にくるそうです。



◀「羅須地人協会」の建物。

▼「羅須地人協会」の入口。賢治は、黒板に行き先を記して出かけたといわれている。



みやざわけんじ しょうがい 宮沢賢治の生涯

「宮沢賢治は——である」と一言で言い表すことは至難の技です。宮沢賢治という人物、そしてその作品はあまりにも多岐多様、複雑だからです。詩人であり、童話作家であり、農芸化学者、農村青年指導者、そして宗教思想家、法華経信仰者などその活躍は多岐にわたります。また、賢治の詩、童話など作品を取り上げてみても、そのそれぞれが多様多様です。したがって、その生涯を詳細まで記述することは不可能ですが、簡単に年代をおってご紹介しましょう。

明治29年
8月27日

岩手県奥郡花巻町(現・花巻市)に、質・古着商を営む父次郎、母イチの長男として生まれる。父は、町内では資産家のひとりだったが、商人というだけでない讀書を好み、仏教の信仰にあつい人物であった。

明治36年
4月

町立花巻川口尋常高等小学校(明治38年から花巻尋常高等小学校と改称)に入学。



小学校時代、成績は優秀で全学年を通じて全甲。鉱物採集にも熱中して「石く賢さん」とよばれた。明治38年4月から担任の八木英三先生に教室で「まだ見ぬ親」(エクトル・マロ原作「家なき子」を五来泰川が翻案したもの)を読みきかされ、賢治は強い感銘をうける。この頃、八木先生にたくさんの童話を読みきかされたことが、賢治の後の童話創作に強い影響を与えたといわれている。

明治42年
4月

岩手県盛岡市盛岡中学校(現・盛岡第一高等学校)に入学。

中学時代の成績は次第に下降。近くの野山を歩いては岩石標本採集に熱中。この頃から短歌の制作もはじめて、多くの習字やロシア文学を好んで読んでいた。

大正3年
3月

盛岡中学校を卒業後、4月肥厚性鼻炎の手術のため、岩手病院に入院。間々とした日々を送る。

秋

島地大等編「漢和対照 妙法蓮華経」を読み、身体がふけるほど感動。これを契機に法華経信仰へと傾いていき、また、父から進学許可もでて、猛烈に受験勉強に励む。

大正4年
4月

盛岡高等農林学校(現・岩手大学農学部)農学科第2部に首席で入学。寄宿舎自啓寮に入る。

座右の書、片山正夫「化学本論」に出会い、土壌学の関与大なる興味をもち、自然学への目が開かれていった。鮎野博士に師事したことで、自然科学への関心も高まった。法華経信仰にも一層熱が入り、授業の合間などには題目を唱えるほどであった。また、級友たちと同人誌「アザリア」を創刊し、短歌や散文を発表した。

盛岡高等農林学校。現在の岩手大学農学部郵便局敷農業資料館。



おひしよ ねん
大正 9年
がつ
5月

もりおかつとつらのりやんがつうけんそくせいし しやうりやう せきさきやじゆ じよさきやじゆ
盛岡高等農林学校研究生を修了。開教授から助教授
推薦の話があるが辞退する。



おひしよ ねん
大正 10年
がつ
1月21日夕

むだんけいじやう げんごうきやうかまち まが
無断上京。本郷菊坂町に間借り、
あかみんまえ ぶんしんや ひつこう もうげん どう
赤門前の文信社で筆耕、猛然と童
話を多作。

がつ
8月

した けいさく けいさく しん けいさく
2つ下の妹トシの病気の報せに大
トランクいっぱい原稿をもって
帰郷。「愛国婦人」9月号に童話「あまの川」掲載。

がつ
12月

ひまのきやうりつたのりやんがつうけんそくせいし しんしやう
稗賣部立稗賣農学校教諭に就任。自ら「心象スケッチ」
とよぶ口語自由詩の意欲的な創作活動がはじまる。

おひしよ ねん
大正 11年

はさ しゆら せんご せきせしやうてん びりしやうばん
「春と修羅」収録の詩篇の制作はじまる。

がつ ちち
11月27日

りやうりやう けいさく しんしやう けいさく しんしやう
療養中であった妹トシ死亡。激しい衝撃を受け、これ
により「永訣の朝」他の「無声慟哭」詩群を生む。

おひしよ ねん
大正 12年
がつ
4月

はさ しゆら せんご せきせしやうてん びりしやうばん
「春と修羅」1千部を関根書店から自費出版。

がつ
4～5月

いわてまにねんしんぶん しやうりんぶん どうりやう
岩手毎日新聞に詩「外輸出」、童話「やまなし」
の毛皮「シグナルとシグナレス」を発表。

がつ
12月

いーまーつーわお けいさく けいさく けいさく けいさく
イー・マート・ワオ童話「注文の多い料理店」刊行。この頃
「銀可鉄道の夜」初稿を書く。

おひしよ ねん
大正 15年
がつ
1月

おがたかめ のすけいんしん げんごう けいさく けいさく
尾形竜之助編集「月曜」旬刊号に「オツベルと象」を発
表。2月号に「ざきき童子のはなし」、3月号に「萬話・
猫の事務所」を発表。

がつ ちち
3月31日

はなせのうけつこうい けいさく けいさく けいさく けいさく
花巻農学校依頼退職し、翌日から下根子桜で独居生活
をはじめた。

がつ
8月

ねん
「縦横地人協会」を設立。

しんしやう ねん
昭和 2年
がつ
5月

むりやう ひりやうかうたじんじん けいさく
無料の肥料相談所を設け、肥料設
計・稲作指導など献身的な活動を
続ける。その傍ら、詩作や童話の
創作にも情熱を傾けていた。



しんしやう ねん
昭和 3年
がつ
7～8月

いもぢやう かん たいけい げんごう なが あいじ か
稲熱病や干ばつの対策に奔走していたが、永い間の過
労と粗食のために発熱、病床についてしまう。翌年ま
で開病生活がつづいた。

しんしやう ねん
昭和 6年
がつ
2月

げんごう かいやく けい たいけい げんごう けいさく けいさく
病状が回復に向かい東北砕石工場技師嘱託となる。技
師としてばかりでなく、宣伝、広告、営業マンとして
各地を飛びまわる毎日であった。

がつ
9月

けいさく けいさく けいさく けいさく けいさく けいさく
上京直後に発熱。数日後、帰宅しそのまま入院してし
まう。この病床で「ダスコブドリの伝記」「銀可鉄道
の夜」「ポラーノの広場」「風の又三郎」などの作品を手
入れしつづける。

がつ か
11月3日

てんし ぶね しん
手帳に「雨ニモマケズ」を記す。

しんしやう ねん
昭和 8年
がつ
9月20日

げんごう けいさく たんか にしや げんごう けい
病状が悪化し、短歌二首（絶詠）を書く。

がつ ちち
9月21日

まなしい げんごう けいさく けいさく けいさく けいさく けいさく
容態は急変し、咯血。「国訳妙法蓮華経」1千部を印刷
して、友人知己に配布してほしいと父に遺言して、自
分て体中をオキシフルでふき終わった午後1時半に
永眠した。37年の生涯であった。この年、東北地方は
豊作であったそうである。

作曲家より

本ゲームには、20数曲ものオーケストラサウンドが各シーンにちりばめられています。この音楽制作を担当していただいた多和田 更さんに制作にあたってのコメントをいただきました。

「イーハトーヴォ物語」の音楽制作の依頼を受け作曲にとりかかったのは確か、我が家の前の畑に植えた「ハニーバンタム」という種のもろこしの収穫の時期だったと思います。異常気象にもかかわらず元気に育ってくれたのもろこしの味は格別なものでした。

物が腐り土の養分になりそれが太陽と水と空気の絶妙なバランスの上に初めて作物として実を結びという「地球上の循環の原理」の大切さを感じる毎日なのですが、このことは畑だけではなく、世の中すべての事柄にあてはまると思っています。太陽の役割をするもの、空気の役割をするもの、水の役割をするもの、土の役割をするものが必ず存在し、それぞれの役割がバランスのとれた形で果たされた時に初めて、最良の成果が生みだされるものと確信しています。そして、それぞれの役割がどんな意味をもっているかというのは、実は幼少の頃の私達自身が、戸外での遊びの中から自然に発見し習得しているものなのだと思います。私が子供の頃も、戸外で一日中遊んでいるうちに朝まぶし程だった太陽が夕方には赤くなり大地に映される影も長くなり、さらには風



向きも変わってしまい、太陽が完全に沈む頃には、ちょっと不安な気持ちで家路を急いだものです。子供達はそういった自然の変化を体で感じとり「物の道理」を体得してゆくのでしょうか。

今回の原作である「イーハトーヴォの童話集」には透き通った心の世界があり、読んでいると何故か昔懐かしくなり、幼少の頃の自分に戻りたいという気持ちでいっぱいになってしまいます。しかし、現代文明社会は、毎日毎日清みのガラス



細工のように壊されてしまっている無抵抗な幼いハートの存在に気づいていません。特に、朝も昼も夜もない都心では、もはや太陽もなければ空気も水も土もありません。あるのは、目を覆いたくなるようなお粗末でちっぽけな「社会人による社会人のための論理」だけです。そんな時だからこそ、私たち大人が幼少の頃の自分を呼び起こし、子供達の幼いハートを守ってあげる義務があると思うのですが、この「イーハトーヴォの童話集」はそうとは知らずに長い眠りにつこうとしている大人達の目を覚まさせる、目覚まし時計の効果をもっているような気がします。目覚まし時計が鳴り続けていても起きることができない大人はかなりの重症で、早期に治療して欲しいと思います。

さて、私の一日には、多摩川の丘陵地にある我が家では緑に囲まれ自然と共に暮らし、その一方都心にある私のプライベートスタジオでは多数のエレクトロニクス製品に囲まれ、それらと格闘するという両極端な世界が存在するのですが、今回の音楽制作はアコースティックな音楽作りのためにあえてスタジオにはこもらず、我が家でモチーフ

を五線紙に書きたため、仕上げをスタジオで行うという方法をとりました。データを打ち込むにあたってはテンポや音符の一拍一拍を綿密に設定し、メロディーを口ずさむ人間の呼吸感や躍動感まで表現するよう心がけました。できあがった20数曲の楽曲には、幼少の頃の私から現在の私までの27年間に感じたことを余りなく投影できたと思います。スーパーファミコンではハード側のメモリー容量などの関係で制約がありましたが、新たにこれらの楽曲にアレンジを施しレコーディングすることによって完全な形に仕上げようと思っています。音楽制作も無事終了し、この「イーハトーヴォ物語」の世界を多くの人たちと分かちあえる日を期待しつつ、昨日畑に植えたイチゴの苗が厳しい冬の寒さに耐え、一日も早く甘くておいしい実を結んでくれることを願ってやまない今日このごろです。

最後に…。今回この「イーハトーヴォ物語」の音楽制作にあたり、多くの方々との多大な協力を得ることが出来ましたことを御礼申し上げますとともに、ソフトの制作に情熱を注がれた脚本のスタッフの方々、宮沢賢治さんとその御家族の方々、そして私の愛する妻と2歳の息子に心より感謝いたします。
1992年10月30日 多和田 吏

- 取扱説明書の制作には、以下の書籍を参考、または引用させていただきました。(順不同)
- ・「新編 風の又三郎」(しんぺん ふうのまたさぶろう 岩波文庫)
 - ・「新編 銀河鉄道の夜」(しんぺん ぎんがてつどうのよる 岩波文庫)
 - ・「注文の多い料理店」(しんろくばなてん 新潮文庫)
 - ・「宮沢賢治詩集」(みやざわけんじ ししゅう たにわけてつげらへん いわがわぶん庫)
 - ・「宮沢賢治への旅」(みやざわけんじへのたび 文芸春秋編/文芸文庫ビジュアル版)
 - ・「年譜 宮沢賢治伝」(ねんぷ 宮沢賢治 堀尾青史/中公文庫)
 - ・「宮沢賢治 二ころの軌跡」(みやざわけんじ にころのきせき 福島章/講談社学術文庫)
 - ・「宮沢賢治の世界」(みやざわけんじの世界 高橋康雄/第三文明社 レグルス文庫12)
 - ・「素顔の宮沢賢治」(すがおのみやざわけんじ 板谷栄成/平凡社)
 - ・「宮沢賢治を読む」(みやざわけんじを読む 西田良子編/創元社)
 - ・「年表作家読本・宮沢賢治」(ねんぴょうさかしたくほん みやざわけんじ 山内修編著/河出書房新社)

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雷ニモ夏ノ暑サニモマケズ

丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

決シテ瞞ラズ

イツモシヅカニワラッテキル

一日ニ米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ

小サナ萱ビキノ小屋ニキテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ッテコハガラナクテモイイトイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロイトイヒ

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボウトヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニ

ワタシハナリタイ

hector
Playing Interface

株式会社 ヘクト

〒102千代田区平河町1-5-13平河町UTビル
PHONE.03-5275-5481(代)
FAX.03-5275-3544

FOR SALE and USE IN JAPAN ONLY
本品の輸出、使用営業及び賃貸を禁じます。

©HECT 1993